

大雪山国立公園の課題マップ(山麗部)

紅葉期等のオーバーユース

銀泉台、高原温泉などでは、紅葉期のオーバーユース対策としてマイカー規制を行っている。旭岳温泉、天人峡温泉では自動車利用適正化のための検討会を開催中。



銀泉台混雜狀況



銀泉台線混雜狀況

大雪山国立公園全域に係る課題

野生生物保護と公園利用の両立

車道付近に出没するエゾシカが増え、交通事故が多発。
ヒグマの多出没地域における利用者の安全対策。
餌やりにより、車道に出没するキタキツネが増え、交通死が増加。伝染病等も心配される。

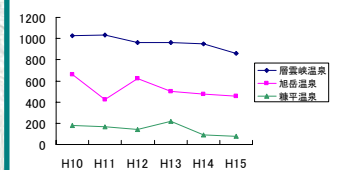


車道に出没するエゾシカ



ヒグマ

公園利用拠点の低迷化 集団施設地区等温泉地の利用 者減と温泉街の活力低下



外来生物の影響抑制

然別湖ではウチダザリガニが繁殖。
わさび沼ではオオカナダモが生育。
防除作業を実施している。
セイヨウオオマルハナバチの大雪山
への侵入も懸念されている。



ウチダザリガニ



オオカナダモ

凡	例
特別保護地区	
第1種～第3種特別地城	
普通地城	
原生自然環境保全区域	

この地図は再生紙を使用しました。

群青チャート株式会社 札幌支店
札幌市中央区北10条西19丁目35番地
TEL(011)831-1115

大雪山国立公園全域に係る課題

登山道の荒廃

大雪山全域40路線において登山道の荒廃が見られる。幅員拡大や洗掘、崩壊、複線化が高山植生の破壊をもたらしている。



沼ノ平付近 歩道がぬかるみ、登山者が踏み出すことで道幅が広がっている

大雪山国立公園の課題マップ(山岳部)

山岳遭難の多発

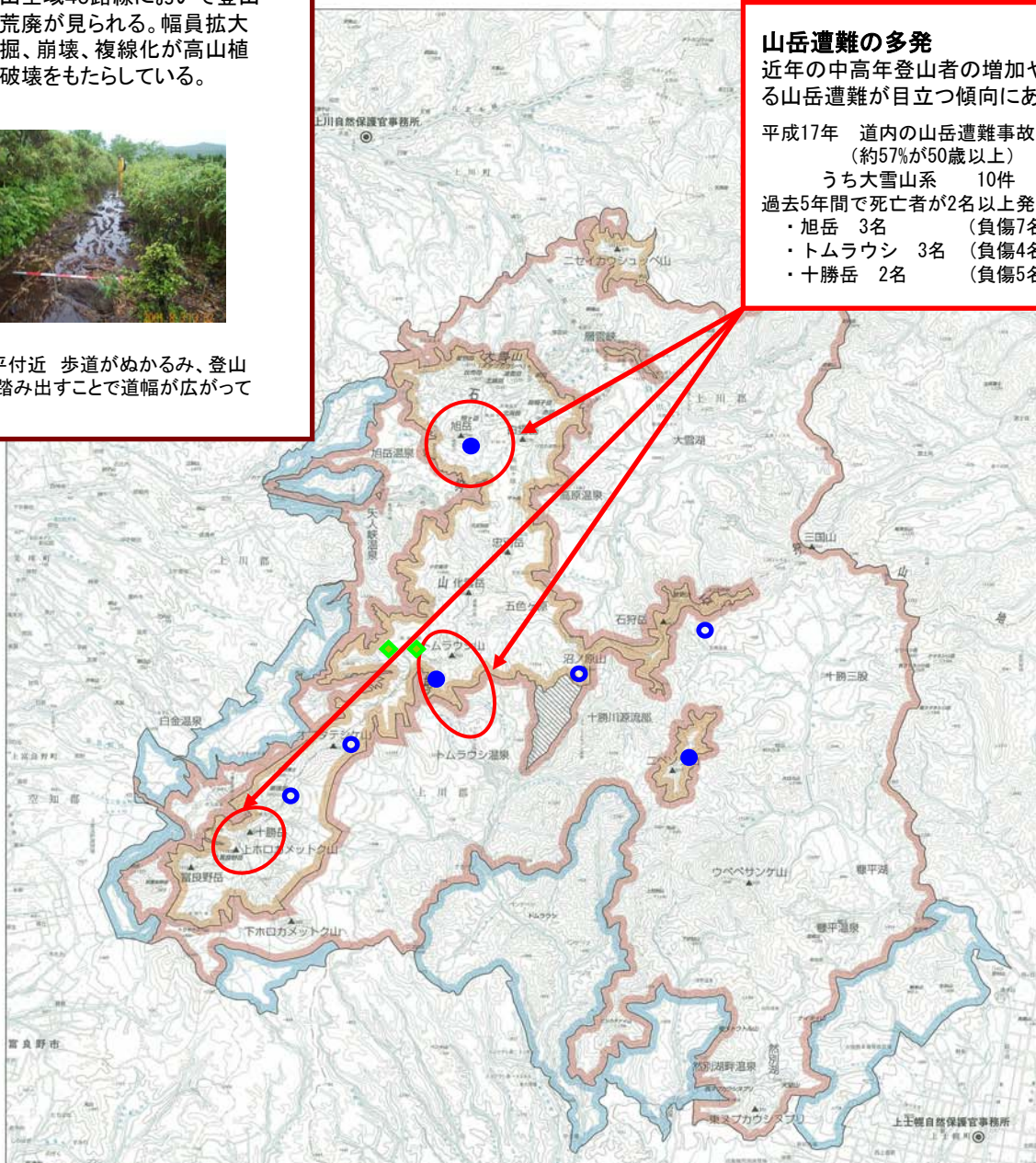
近年の中高年登山者の増加や過信等による山岳遭難が目立つ傾向にある。

平成17年 道内の山岳遭難事故 37件
(約57%が50歳以上)

うち大雪山系 10件

過去5年間で死亡者が2名以上発生した箇所

- ・旭岳 3名 (負傷7名)
- ・トムラウシ 3名 (負傷4名)
- ・十勝岳 2名 (負傷5名)



凡	例
特別保護地区	
第1種～第3種特別地域	
普通地域	
原生自然環境保全地域	

この地図は再生紙を使用しました。

山岳トイレ問題

黒岳などのバイオトイレの適切な運用に支障。
12野営指定地のうち、トイレのないものが7カ所ある。
携帯トイレの普及が不十分。

- トイレの無い野営指定地
- 携帯トイレブース有り
- ◆ 指定地外の野営地化



ティッシュの散乱



携帯トイレブース